

## 歴博くらしの植物苑だより

くらしの植物苑観察会 13:30 から くらしの植物苑東屋

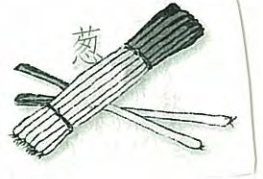
第103回 10月27日(土)

「江戸・東京の野菜」 加藤陽子 (荒川ふるさと文化館)

第104回 11月24日(土)

「江戸の菊」 平野 恵 (文京ふるさと歴史館)

くらしの植物苑今週のみどころ 毎木曜更新 <http://www.rekihaku.ac.jp>

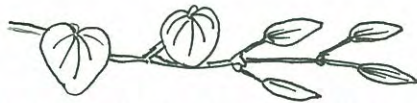


### くらしの植物苑 特別企画

#### 『伝統の古典菊』 10月30日(火)～12月2日(日)

10月30日(火)13:30から展示の内覧会(参加自由)を行います、展示プロジェクト員の解説もあります。

#### カツラの異形葉性



今の時期、カツラは黄色く紅葉し始めています。そしていい香りがしてきます。近くで葉をよくみると、葉の形が2種類あることに気がつくと思います。前年の枝についた芽から基部が心形をした葉を1枚だします。次にその一葉とはことなる基部が鋭形をした葉を2枚同時にだし、さらに枝を伸ばして同じように葉を2枚だします。このように2種類の葉を同じ木につけることを、異形葉性といいます。葉の開き方はほかにも、ブナ、トチノキ、ミズナラなどのように春先に一斉に葉を開いてしまう一斉開葉型。長期にわたって1枚ずつ順次に葉が開いていく、ケヤマハンノキなどの順次開葉型などがあります。葉が開いていくのをゆっくりと見ていくのも面白いかもしれません。

#### カツラ (カツラ科カツラ属)

日本の温帯地域の渓谷を構成する樹木で、日本の準固有種です。雌雄異株で、花には花弁もがくもありません。黄葉した葉には甘い独特な香りがあり、抹香に用いました。甘いシロップのような香りが苑内にしています。



#### シナノガキ (カキノキ科カキノキ属)

西アジアからヒマラヤ、中国原産で、果実は1.5cmと小さく、未熟の果実からは渋を取ることができます。柿渋は番傘の防水などに用いられました。苑内に

は、栽培品種のシセントキワガキもあります。右はシセントキワガキです。



#### ザクロ (ザクロ科ザクロ属)

食用、観賞用に栽培される小高木で、枝わかれや刺があります。ザクロは家に植えると吉とする場合と凶とする場合の両方のいわれがあります。果実は球形で先端には6裂したかくが残存します。最近ではザクロを生食以外に飲料としても販売されています。



#### ハヤトウリ (ウリ科ハヤトウリ属)

メキシコ原産のウリで、果実は倒卵形で中には1個の大きな種子があります。雌雄異花で、雄花にホソヒラタハナアブがとまっていた。雌花は枝のつけ根につきます。

例年より花の咲くのが1ヶ月以上遅く、やっと咲き出しました。果実はつけもの、いため物などにされます。



#### ムベ (アケビ科ムベ属)

日本原産の大きな果実をつける常緑のつる性木本。果実は紅紫色に熟すが、アケビのように開かない。果実は種子が多いが甘いので食用にされます。果実や種子は駆虫薬などにも利用されます。

